



特定非営利活動法人 なんとなくのにお通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



担当スタッフによると、この15倍近い個数を焼いたそうです。とすると、ひとり何個食べたことになるのかなあ？

卒業・進級おめでとう！

3月27日、子どもたちや保護者、スタッフ20名ほどで、卒業・進級・進学を祝う会を開きました。

みんなで餃子を作って食べる会でした。普通の餃子プラス3種類の味付け(エビ、シソ、カレー+チーズ味)。餃子包みの作業では、子どもたちみんなの笑顔が印象的でした。デザートのカレーケーキ作りを担当してくれる若者、ドリップコーヒーを上手に淹れてくれる中学生もいて、とても楽しい会になりました。

そして、若いスタッフたちがそれぞれの役割を分担し、買い物や段取りをしっかりとってくれたことが、とても嬉しいことでもありました。今後もこの居場所が続いていく手ごたえを感じました。(白井)



ホットプレートだけではとても間に合わず、(2台使うとプレーカーがあがる)フライパン焼きも同時進行。ガス台まわりも大忙し。

子どもたちは、運ばれてくる餃子が積まれたテーブルの周りにいつのまにか集合。輪になって、餃子をつつきながら話がはずみました。



2018年度、6人の小中学生の支援を継続して行いました。所属校の担任の先生の訪問、校長先生の来所などもあり、今まで以上に学校との連携が進んだ一年だったのではと思います。

不登校についての相談は20件近くありましたが、具体的な支援につながった事例は数例でした。今回のような交流を通じて「居場所」への理解が広がり、より多くの子どもたちが集う場所へと成長していくきっかけになればと思います。(手塚)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

目次

居場所のひとこま

- 卒業・進級おめでとう！ 1
- 体罰の全面禁止に向けて 2
- 川むしたんけん隊(予告) 2
- 活動報告 3
- 第15回通常総会のお知らせ 3
- こんな本はいかが・45 4

新年度が始まりました。いままでは火・金曜日だった春休み中の居場所開所日を月~金曜日に拡張し、学期中と同じに週5日開いています。4月の第1週、カードゲームや毎年恒例のじゃがいも植えなど、子どもたちも参加して楽しく過ごすことができました。ハンモックの部屋には、いつの間にか、LEGOのお家ができていました。(N)



体罰の全面禁止に向けて

子どもの権利委員会による『日本の第4回・第5回
統合定期報告書に関する総括所見』から

本年度2月に子どもの権利委員会による「日本の第4・第5回統合定期報告書に関する総括所見」が発表されました。これは、子どもの権利条約締約国の報告を審査し、締約国に対する評価と勧告を記した文書です。つまり、日本における子どもの権利に関する状況への評価と勧告が記された文書という事になります。

SNS (Twitter) では、一時「子どもの権利委員会」が検索キーワードの上位に浮上しました。その中でさらに検索上位に浮上するツイートの大半が「体罰」問題に言及する内容でした。子どもの権利委員会は、今回の総括所見で「家庭、代替的養護および保育の現場ならびに刑事施設を含むあらゆる場面におけるあらゆる体罰を、いかに軽いものであっても、法律（特に児童虐待防止法及び民法）において明示的かつ全面的に禁止すること」と日本に措置を促しています（ARC 平野裕二の子どもの権利・国際情報サイト

<https://www26.atwiki.jp/childrights/pages/319.html>）。要するに、子どもの権利委員会が日本に対し、家庭内も含めて体罰を全面的に禁止するように促したことが話題になったようです。

この体罰禁止は日本にとって画期的な提言といえます。例えば、学校教育法では体罰は禁止と規定されていますが、民法では親の子どもに対する懲戒権が規定されています。この懲戒権の規定により、虐待はもとより、教育空間で生じる大人による子どもへの暴力加害も「懲戒権の代理行使」という奇妙な論理をもって肯定されることがありました。特に「不登校を矯正する」と謳っているような民間の教育施設では、親の代わりに子どもを懲戒する、という理屈をもって子どもたちに暴力が振るわれてきた歴史があります。死者も出ており、悲劇的な歴史といってよいでしょう。

虐待により亡くなった子どものニュースが注目を浴びています。また、教育関係者も含めた大人による暴力で身体的・精神的な傷を負われ、生きづらさを抱える子どもも少なくはありません。子どもの暴力被害を根絶するためにも、今回の勧告を活かして、体罰が全面的に禁止になるよう、法律を改正するべきと考えます。（加藤敦也）



今年の川むしたんけん隊は
環境省 全国水生生物調査に参加します。

6月1日(土曜日) 午前9時30分集合 ~
開催場所など詳細は未定です。

今回は、環境省から届く、調査キットも使用して水質調査を行います。

以下は環境省のページより引用しました。

<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/suisei.html>

川の中には色々な生きものが住んでいます。とくに、カゲロウやサワガニなど、川底に住んでいる生きものは、水のきれいさのていど(水質・すいしつ)をはんえいしたものとなっています。したがって、どのような生きものが住んでいるか調べることによって、その地点の水質(すいしつ)を知ることができます。

調査(ちょうさ)は川べで生きものをつかまえて、指標生物(しひょうせいぶつ・水質(すいしつ)のていどをあらわす目安になる生きものについて調べることにより、その川の水質をきれいな水(水質階級Ⅰ)／すこしきたくない水(水質階級Ⅱ)／きたくない水(水質階級Ⅲ)／たいへんきたくない水(水質階級Ⅳ)に判定(はんてい)します。

環境省(かんきょうしょう)では、「川の生きものを調べよう・水生生物(すいせいせいぶつ)による水質判定(すいしつはんてい)」というパンフレットをつくって、この調査(ちょうさ)への参加をよびかけています。みなさんもこの調査に参加してみませんか？

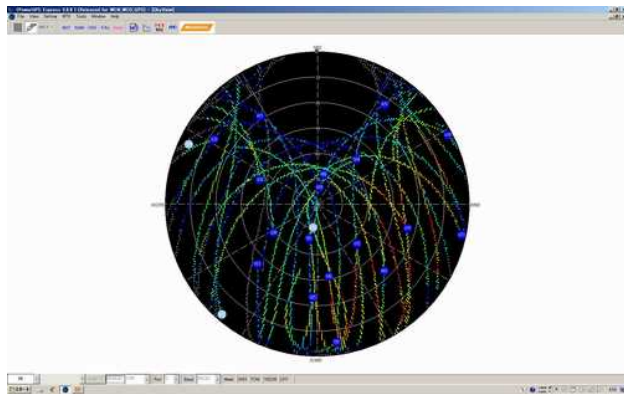
新学期にむけて フリースクール・居場所からの呼びかけ

学校に行きづらいひといますか。学校に行くのがつらいと思っているひとが自分のペースで過ごせるいばしょがあります。とにかくいちどれんらくしてください。そして、来てみてください。わたしたちは、あなたの気持ちをうけとめます。

この呼びかけには「なんとなくのにわ」も参加しています。以下は賛同する他団体のリストです。

- ▼ 小山フリースクールおたるの家 小山市城東2-2-4 月、火、水、金11時~16時
フェイスブック: <https://www.facebook.com/oyamaoruta/> 080-7960-0178 (稲葉) u16178@gmail.com
ホームページ <https://orutaoyama.amebaownd.com/>
- ▼ デモクラティック・スクールつながるひろば 栃木市大塚町(野州大塚駅徒歩1分) 時間は要相談
フェイスブック: <https://www.facebook.com/tunagaru7hiroba/> 080-5477-1438 (宇賀神) tunagaru.hiroba@gmail.com
- ▼ 栃木自主夜間中学・栃木登校拒否を考える会 栃木市平井町980-9 070-5555-7455 (石林) 3ishi3@cc9.ne.jp
ホームページ <http://www.cc9.ne.jp/~ishi3/>
- ▼ みんなの居場所・カフェあおぞら 小山市立木字天神1514-2
小山市内から栃木に向かう観光橋を渡り、2つ目の信号を右に曲がり、右手2件目
火・水・木・金 11時~15時 駐車場5台あり 0285-38-6368 (あおぞら)、080-1196-6937 (佐藤)

- 1月31日 (木) 通信「なんとなくのひろば・第54号」発行
- 2月22日 (金) つくって食べよう! (シチュースパゲッティ)
- 2月 8日 (土) 塩谷町甲状腺検査報告会 (環境研究班)
- 2月18日 (月) 宇都宮大・公開シンポ「原発事故後8年の社会/『科学』・政策への違和感を語る」(環境研究班)
- 2月23日 (土) 「かがやきカフェ」(日光市ひきこもり相談センター)
- 2月23日 (土) 講演会:元文科省がやってくる...不登校政策の今迄とこれから(栃木総合教育センター)
亀田徹さん(元文科省職員)、奥地圭子さん(NPO 登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク)
- 2月24日 (日) ベリー会:学習会
- 3月 5日 (火) 第88回理事会
- 3月11日 (月) 茶話会(第89回)
- 3月27日 (水) 進級・進学を祝う会(子どもの居場所)
- 3月27日 (水) 2019年度・居場所委託の見積書提出
- 3月29日 (金) 子どもの居場所・2018年度 終了
- 3月31日 (日) ベリー会:月例会
- 3月31日 (日) ワカモノフェスタ実行委員会
- 4月 1日 (月) 子どもの居場所・2019年度 開始
- 4月 8日 (月) 茶話会(第90回)



近頃「居場所」のミニブーム・GPS受信機キット
シリアル-USB変換アダプタに接続してパソコンにつ
なぎ、GPSビューアソフトを起動すると、衛星の位置
がディスプレイに表示されます。
しばらくそのままにしておくと、衛星の動いた軌跡が
表示されていきます。
北極の空には衛星が飛んでいないこと、南東方向の
電波が強いことなどがわかり、興味深い。
スマホのアプリにもありそうだけど...

さくらそう関連の勉強会など

- 日光市相談支援専門員連絡会
2月27日(水) 介護支援専門員・相談支援専門員合同研修会
- 県西圏域相談支援事業者等連絡会
2月15日(金) 2018年度振り返り
- 日光市障害者自立支援協議会(事例検討会議) 2月14日、3月14日
- 3月8日(金) 相談支援実務者会議
- 精神障害者家族教室 1月16日(水)
体験学習「統合失調症の症状について」
～擬似体験(バーチャル ハルシネーション)～
- 発達障害者支援 スキルアップ研修(県西圏域) 2月22日(金)
「発達障害者の就労支援について」(上都賀庁舎)
- 藤原地区 民生委員・児童委員協議会 定例会(2月7日(水) ふじの郷)
講話「障害福祉研修会 発達障がいで何?」(講師: 栗原真佐美) ← 本会理事の栗原が講演を行いました。

第15回 通常総会のお知らせ

日時:2019年5月11日(土)午後1時より

会場:日光市民活動支援センター(日光市今市304-1)

「なんとなくのにわ」の設立総会は2004年10月24日(日)に行われ、次の年、2月のNPO認証を経て、第1回の通常総会開催は2005年5月7日(土)でした。毎年開催する通常総会は今回で15回目をむかえます。もう15年も経つのか...と、古い記録を、久しぶりに取り出してみました。

第1回総会資料に載せた理事長あいさつを引用します。「すべての子どもたちは学ぶ権利をもち、学校は子どもたちの学びを保証する場です。けれど、さまざまな理由で不登校となった子どもたちにとって、『学校に行かねばならない』という圧力は、大きな負担となります。外面的な、不登校という現象のみにこだわることは、その子どもの存在そのものを否定することにつながりかねません。学校へ行くことを強制されることなく、ゆっくり過ごすことができる場所で自分を見つめ直し、ふたたび学校への一歩を踏み出す子どももいるはず。一方で『学校へ行かない』という道を選んだ子どもたちには、従来の学校とは異なる、新たな学びのプログラムを、そして将来の職業を見据えた進路選択を共に考えていかねばなりません。多様な生き方を保証するためにも、子どもと大人が協同する、この新しい学びの場の存在は、ぜひとも必要なことと考えます」

NPOを立ち上げた頃の記憶といえば、NPOの業務や会計など何もわからない状態で、たくさんの書類の作成や点検に追われたことばかり思い出されます。そんなことばかり残っているけれど、14年前、設立時の有志と相談して文書にした「宣言」にはこんなことが書いてあり、ここに「なんにわ」の原点があるのだと、読み直してあらためて強く感じました。

いま、「多様な生き方、多様な学び、オルタナティブ教育」という言葉があちこちで聞かれます。2016年12月には一人ひとりの学習権を保証するという理念を持つ「教育機会確保法」も成立しました。この法律が今後どうなっていくのかも含め、「多様な学びを」保障するってどういうことなのか、どんな制度が可能なのか、そんなことを「居場所」や「学び」に集う仲間たちと今年も考え、少しでも形にしていきたいと思えます。今年度も「なんとなくのにわ」をよろしく願います。(手塚)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 45:

浮世の画家 カズオ・イングロ (飛田茂雄 訳)

2017年にノーベル文学賞を受けた日本生まれのイギリス人作家、カズオ・イングロによる長編2作目の作品です。1作目『遠い山なみの光』と同じく日本が舞台となっています。細かい風景描写はあるものの、日本という場所に住んでいる人間から見ればどこか異なる季節感と空気感。そんな景色の中に登場する人々の、信条や信念のやりとりが直截的な会話として描かれる、不思議な雰囲気を持った物語です。

イングロの作品の多くは、主人公である「わたし」の語りで進みます。その語りは現在から過去へ、しかも過去の複数の時点へ、舞台が変化するように時空を行ったり来たり。これがイングロが見つけた「語り手の思考の流れや記憶の漂流に乗って話をつないでいく」(新版・序文より)小説技法なのかもしれません。主人公であり語り手の小野は引退した画家です。戦前から戦中にかけて自分の画業に誇りを持ち、それなりの地位を築いたことが語られます。けれど、なぜこの画家が引退したのか、その経緯はあいまいです。はじめの章「1948年10月」には「わたしは世間の評価など全然気にかけない」と述べているのに、その後の振る舞いや過去の回想には、それとは矛盾した言動や行動が見られます。物語の現在である戦後の小野は、自分の過去の影におびやかされつつ、二女の見合いを成功させようと腐心する父親であり、孫との会話を楽しむ祖父として描かれます。

その孫に「ぼく、おじいちゃんのえをみたい」と言われても小野の絵は出てきません。過去の画家仲間との論争の思い出に、小野の描いた絵の述懐があります。それもとどめがなくぼんやりとしたもののように思えます。小野の記憶を通して語られる周囲の人々との会話は日本人同士とは思えない明晰さを持っているわりに、注意して読むと多くの矛盾が見え、重要な部分が欠落しています。しかも同じ人物が物語の前後で違った記憶を持ち、意見を持つ。それは小野の記憶の中の記憶であり意見として記述されます。

国威発揚に協力し、その罪ゆえに没落した画家の話に見えて、イングロ文学の関心はそこにはありません。戦前・戦後の日本という場所を借り、自分なりの信念を持ってある時代を生きてきたひとりの人間を選び、その信念が揺らいだときに何が起きるのかを描いたお話といえればいいのかもかもしれません。続く出世作、『日の名残り』とつながる作品なのでしょう。

まだ、カズオ・イングロを読んだことなくてSF好きなら『わたしを離さないで』、ファンタジー好きには『忘れられた巨人』がおすすめです。(個人的には後者が好きかな…) どちらもカズオ・イングロ作品に通底する、記憶についての物語。ちょっとねじれた空間と時間を行ったり来たりする思考の流れを楽しむことができます。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

- 正会員：48
賛助会員：19
団体会員：4
入会金なし
- 年会費(一口)
正会員 3,000円
- 賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接関わることができます。みなさまの積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

古代中国の「杞」の国に住む人が「天が壊れて落ちてきたらどうしよう」と心配していたとの故事から「杞憂」という言葉が生まれたそうです。人工衛星が飛ぶ現代、天蓋は消滅し空が崩れることを心配する人はいなくなりました。けれども科学の発達を作り出した不安は複雑化し絶えることがありません■「ガリバー旅行記・第3編」の「ラピュータ渡航記」に当時の科学者が滑稽に描かれ、国民がありもしない災に思い煩うという話があります。小説の成立はニュートンが運動力学の基礎を作り上げた英国。それから300年余、作者スウィフトの予言が的中したのか、急速に発達した科学は化学物質、放射能、遺伝子操作などたくさんの心配事を作り出しました■現実的な脅威に加えて新たな「杞憂」も登場しています。「インフレーション」という宇宙の急激な膨張が終末をもたらす未来予測、「より安定な真空」への相転移が宇宙のすべてを破壊するなどなど、空想科学のような心配の種を科学は製造しています■それにしても2500年も前に生きていた人が、どのような思考を経て天蓋崩壊なる大災害を思い付いたのかも気になります。好奇心旺盛な人類の想像力は今も昔も同じ。破滅の恐れを内包しつつ、そのパワーは現代の科学という世界に息づいているのかもしれません。(T)